

Community Welfare Total Care Promotion Project

トータルケアNEWS

37 2009.8.25

発行 社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
〒010-0922 秋田市旭北栄町 1-5
TEL 018-864-2711 FAX 018-864-2701
URL <http://www.akitakenshakyō.or.jp/>
E-mail chiiki@akitakenshakyō.or.jp

CONTENTS

【特集】
美郷町社会福祉協議会の
トータルケア実践・・・1～4

【特集】美郷町社会福祉協議会のトータルケア実践

トータルケアみのり委員会に期待！

美郷町社会福祉協議会上席主任 木村節男

設立経緯

少子・高齢化の急速な進行、核家族化や一人暮らし高齢者の増加などにより、福祉に対するニーズが増大かつ多様化する中、平成17年度～平成19年度まで「みんなで築く やさしい未来 地域（まち）づくり」を基本理念としてトータルケアモデル社協として美郷町は取り組んできました。

今までのトータルケア事業の点検・評価・見直しと今後のトータルケアフォローアップ事業の推進を図りたいということで、平成20年12月1日に「トータルケアみのり委員会」（以下、「みのり委員会」という）を発足させました。

活動内容と委員構成

現在みのり委員会では、平成19年度の取り残し事業である「おたすけマン事業」と「災害・緊急ボランティア事業」の実施に向けた話し合いが行われております。

みのり委員会の委員は、23名（公募者9名）で構成され、平成20年度は、2班で作業委員会を行い「日常生活のチョットした困りごとをお手伝いする事業」を有償で行う「おたすけマン



事業」を10月下旬の実施に向けて協議を重ねている最中です。

現在、受付場所、受付係りをどうするかなどの問題、仕事内容（介護保険外、シルバー人材センター業務にないもの）などを検討しており、シルバー人材センターとも打合せを密にして進めております。

「おたすけマン事業」は、「トータルケア会議」や「座談会」などを通じ、住民や一人暮らし・高齢者世帯の方々からの声をもとに実施しようとしたもので、若い人では簡単に出来ても、体の自由がきかないお年寄りが電球を交換できなかつたり、ゴミだし場所まで距離があり大変だ等の日常生活を営む上で欠かせないことの不便さを解消するものです。

この事業によって少しでも一人暮らし・高齢者世帯の方々地域で暮らしやすくなればと思い、作業委員会の班長を中心に委員の方・職員が一同となって資料、チラシづくりに奮闘しております。11月以降は、住民からの評価をもとに、点検・見直し、クレーム対応について検討していきたいと考えております。

住民への周知についてはシルバー人材センター事業と誤解のない周知方法の徹底が必要です。住民の皆さんの声を大事にして改善してより良いものにしていきたいと思っております。

もう一つの、「災害・緊急ボランティア事業」は、美郷町民含め、行政、社協が災害への意識が薄いことへの対応をどうするか考える取り組みです。現状は「美郷町は、地震も豪雨もなく冬だけ我慢すれば安心して暮らせる場所だな」という感じですが。この意識を少しでも変えようと行政、社協が一体となって民生児童委員の協力を得ながら「要援護者マップ」のためのアンケート調査を実施したところです。

アンケートを配布して数日ですが、回収率は予想以上で、8月に山口・岡山豪雨災害や静岡地震などが立て続けに起きたこともあり、美郷町にもいずれ来るのではないかという危機感の表れではないでしょうか。カタチはどうかであれ少しでも災害に関心を持ってもらえれば良いと思っております。第1回作業委員会では、何をすすめて、どうすればいいのかわからないままに会議が終了してしまいました。

そこで、先進地研修を行う必要があるとの声から、東成瀬村社協と湯沢市社協への研修会を実施しました。研修を終えた参加委員の皆さんから「やることはたくさんある。非常に参考になった」との声が帰りのバスの中で聞かれました。美郷町の「災害・緊急ボランティア」事業は、始まったばかりでやることは沢山ありますが、委員の皆さんのお力を借りながら、長い道のりではありますが作業を進めてまいります。



今後の進め方

資料やマップづくりは時間をかければできますが、地域に「何があっても構わないでくれ」という方がいたとしても知らないふりはできません。地域と付き合いたくない人でも災害・見守り協力を地域全体で考える良い機会ではないでしょうか。昔の近所付き合いが薄れてきているのは分りますが、災害・緊急に至っては地域協力が絶対不可欠であることを住民自身にわかってもらいたいと思います。その意味でも、「要支援者マップ」づくりで地域住民と膝を交えながら、その地域でしか知りえない情報が「災害・緊急」時に必ず役に立つはずで、作業委員会で、ある委員の方が言った「同じ地域に住んでいるのに協力しないとはどういうことか」という一言が印象に残っております。これが今の美郷町の現状ではないでしょうか。そういう意味でも、住民と共同で「マップ作成」することは大切で、社協と住民の絆がよりよいものになるはずで、作業を進めるのは大変ですが、この機会を大事して行政・社協・住民が一体となれる作業にしたいものです。

災害マップ作成視察研修で感じた事

美郷町トータルケアみのり委員会委員長 加藤 勇孝

昨年、6月14日「岩手・宮城内陸地震」を機に各市町村とも、要支援者の「マップ」づくりに勢い着手する傾向が伺えました。

トータルケアみのり委員会の「災害時におけるボランティア体制づくり検討委員」である私達9名（社協職員含）は8月7日、先進地である東成瀬村・湯沢市社協を訪問しこの種の視察研修を実施しました。

東成瀬村に於いては「地区福祉推進連絡協議会」が設置されていて、きめ細かい活動体制が既に敷かれていました。また、「要支援者防災マップ」も行政等関係諸機関との密なる連携を取りつつ作業を推進、完成されたものが出来上がっていました。

湯沢市にあっても日常的に支え合う活動を基軸としての「マップ」づくりが、一町内5~6名程（町内役員、福祉委員、民生児童委員）で各町内会毎に進められていて、何より社協職員が住民のまっただなかに入り、共に作業を進めていくという姿勢が見られるとともに、斯様な「マップ」づくりを契機にあらゆる諸問題に直結したいとの熱い思いが伝わってくるようでした。

両社協とも「Social Welfare」の精神に立ち地域の人々の幸福な暮らしを実現するための道筋、方法を「肝胆を砕く」が如くの思いで努力なされているのが見てわかりました。ともあれ大いに学ばせてもらった有益なる一日でありました。

災害マップ作成視察研修に参加して

美郷町トータルケアみのり委員会委員 高橋美由紀

7月からトータルケアの災害ボランティアの作業委員会に参加していますが、今まで大きな災害を経験したこともなく、緊急時の要支援者マップを作ると言われても“誰のために？”“どんな時にどこで使うの？”と頭の中が疑問符でいっぱいでしたので、今回の視察研修を楽しみにしていました。

初めに伺った東成瀬村では去年の地震発生時に直後から地区内での安全確認や給水活動が出来たと、以前にお聞きしたので、その後の活動がどのように発展しているか興味深く説明をお聞きしました。地震発生前から行政や消防、様々な分野や地区の代表が一緒になってマップを作成しており、その後も避難訓練などに利用していることに驚き、お互いの顔が見える地域ならではの活動や利用方法を教えて頂きました。

次に伺った湯沢市では、地域の方々が自分たちの手で自分たちの使いやすい様なマップ作りをしていました。個人情報保護の観点から必要なことや問題点、活動を認識してもらうまでの苦労などをお聞きしましたが、何より『子供からお年寄りまで地域で助け合う』を目指して地域に働きかけている活動は、私たちが常に心に置いているものと同じであり、とても励まされました。マップの作成への協力を得ることや地域全体（特に若い世代）にマップの存在を浸透させるなどの課題はあるようでしたが、ここまで作業を進めるにはかなりの時間と根気が必要だったのではと頭が下がりました。

さて、美郷町は高齢化や核家族化などで自分自身が要支援者になる方が増えているのに加え経済状況の悪化で他人にまではかまえず、ボランティア活動をするのは「暇な人」か「物好きな人」などで見られ、なかなか活動に参加しない、あるいは出来ない人が多いのが現状です。まして私と同じ様に大きな災害の経験がない方が多い為、マップ作りは難航が予想されます。しかし先日来、日本各地の様々な災害が報道されているこの時期こそ『自分たちの地域は自分で守る』ことの意識を高められると思うので、まず行動しようと思います。また、地域のためのマップ作りでも、色々な問題にぶつかった時は行政の協力が必要であり、一つの問題が複数の場所でたらい回しされることなくすぐ解決できるネットワークも必要だと思います。そのネットワークが災害時には地域で手に負えない事の解決や迅速な情報の伝達を担ってくれば安心感が増すと期待できます。ネットワークの末端には地域連絡網があれば便利だし、避難場所の周知や避難訓練も出来るかも...あれも出来る！これも出来るかも！と、空想がどんどん膨らむ有意義な視察でした。

どちらもマップの利用はもとより、マップを作る作業などで出来た人間関係で、見えなかった問題や課題が、また解決策なども見えてきたことが強く感じられました。“自分たちのために！”“どんな問題が起きてても対処できる！”そんな要支援者マップ作りを目指してみたいです。